

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2293100026		
法人名	(株)オアシス		
事業所名	グループホームオアシス中之郷		
所在地	静岡県富士市中の郷3152番地の1		
自己評価作成日	平成26年8月5日	評価結果市町村受理日	平成26年10月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

会社の理念「思いやりの心を大切に」「安心・安全・楽しく」を基に入居者の方々と楽しく生活しています。一人、一人の生活空間を大切に、時間で縛られず個人のリズムで1日流れて行くように努め、グループホームのみならず、デイサービスや地域の方々とイベント等で関わりがあり、自由に行き来しています。
認知症を抱えているおられる方々だからこそ、外出を大切に、毎日の散歩は欠かさず「行ってきます」「ただいま」をくりかえしていく事により、住む場所と想っていただけのようにしています。
全職員が救命救急講習を受講し、医療従事者との連携に備えています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=2293100026-00&PrefCd=22&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成26年 9月10日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

本線から奥へ登り緑の山々が望める静かな住宅地の一角にある施設である。入居者が毎日出かける散歩道の起伏はほど良い刺激となり健康のパロメーターにもなっている。入社して9ヶ月目の管理者は介護に熱い思いと経験が豊富で入居者に添う介護の大切さと、職員の書類記帳業務等の重複を省く合理的改善指導に依り目の届く支援に繋げている。又職員には困った時、大変と思った時には言葉に出してお互いに助け合おうと「輪」と「心のゆとり」を持つことにより入居者も自由に過ごされるので、表情も明るく笑みが見られる様になった。ボランティアの来所も多く、イベント行事は近くにある同系列会社のデイサービスで行い地域の方達と馴染みの継続に繋げている。年4回看護専門学生の実務研修は学生から受ける新鮮な気付き、言葉が聞かれ職員の反省、見直し、勉強の機会となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「思いやりの心大切に・」 「尊厳を支えるケア」設立時からの理念である入居者と職員が家族であるように、との思いをこめて実践に向け理念を念頭に置いて業務にあたっている。職員には入職時に説明している。	職員は常に自分達の親だったらと意識して入居者に添っている。法人の理念の他に個々に自分の理念を作り見直し、反省の機会としてホーム会議等で話し合い実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	イベントがある時には地域の方々に来ていただき、ふれあいを大切にしている。また、買い物や散歩の際、地域の方へ挨拶を交わしたり声を掛けたりと交流している。	地域行事の情報は回覧板で知り参加したり施設の行事に来て頂き地域とのふれあいを大切にしている。夏祭りには入居者、職員、ボランティアの参加でちらし寿司を作り、売上金を町内に寄付した。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	道路を挟んで公民館があり、踊りの会やお祭りには参加し、盆踊りな地域の方と行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとの運営推進会議を開き、活動報告など話し合いを行い、参考意見を等をサービス向上に活かしている。	行政、包括、民生委員、区長、入居者、家族、職員の出席で2ヶ月に1回開催。現状、行事、事業報告等して質疑応答、アドバイスを受ける。参考意見はサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者には事故の報告・相談、及び運営上の相談等アドバイスをいただいている。また運営推進会議には地域包括センターにも参加していただき、情報交換等行い協力関係を築くように取り組んでいる。	事故報告書を提出、介護報酬改正に基づく説明を受けたり出向くことが多い。研修案内やアドバイスを受けたり情報交換ができ協力関係は出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関等に施錠なく自由に行き来できる。また研修や身体拘束マニュアルの中で介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を明記し、拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	ホーム会議で勉強し、身体拘束の弊害について理解している。入居者に自由な暮らしの支援の為職員同志連携をとりながらスピーチロック等お互い注意し合い支援に繋げている。ヒヤリハットは些細なことでも記入し職員は目を通し確認印をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議で虐待防止について話し合い徹底に努めている。また、全職員が日頃から、気づきを大切にケアを行っており、入浴や更衣時にはボディチェックを行っており、見過ごしがないように注意を払い、虐待防止に努めている。		

静岡県(グループホーム オアシス中之郷 1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修に参加した計画作成者が復講しホーム会議で全員が学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には必要な説明を行い、ご家族が理解・納得した上で契約を行っている。また、契約時のみならず、疑問点や要望には随時返答出来るように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や、運営推進会議でご家族からの意見・要望を聴く機会を設け、それらを運営に反映させるように努めている。	請求書と一緒に送付したアンケートには良い内容ばかりだったので、今後は他の方法を検討中である。入居者の家族から手伝いをさせてと申し出があり牛乳、新聞の取り込みを依頼したら自分の仕事としノートにシールを貼り記録している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的なホーム会議では事前に意見収集し、職員の提案を聴く機会を設け、それらを運営に反映させるように努めている。	ホーム会議では職員全員に発言させている。又個人面談も行っている。職員は6つの係に担当し気付きや、オアシス10ヶ条に基づき勉強会を行い意見を基に運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者はホーム会議に参加し、職員の思いや要望を聴き、職場環境・条件の整備に努めている。また、頻繁に施設に来て、勤務状況の把握に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や施設内の研修会を行い、スキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス事業者の交流会があり全員参加し入居者・職員との交流を深めている。他の事業者との意見交換をする機会も増えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に本人と面談し、希望や不安なことを聴き、受け止めるようにしている。また、可能な方やご家族様に入居前に施設を訪問していただき、不安の解消につなげている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の面談や相談時にはご家族の思いをじっくりと聴き、それらの解消につとめている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談時は、他のサービス利用も視野に入れ、本人と家族が何を必要としているか見極めるように支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に家事をしたり、誕生会や季節の行事など共に計画・実施している。また、人生の先輩であり、日々いろいろなことを教えていただき良い関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	誕生会や行事等本人やご家族の希望を聴き、一緒に計画・実施している。また、遠方にご家族には毎月お便りを出し日頃の状況を報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会を自由にしており、家族や知人との時間を大切にしている。また、家族の写真を持ってきてもらったり、自宅に戻り近所の人に挨拶したりの支援もしている。	訪問時間は夜間以外は制限していない。手紙の表書き、外泊、理美容等外部との馴染みの継続支援に努めている。70年ぶりの再会者に又の来訪のお願いをした。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食卓の席の配置を検討したり、話題作りをし、気の合う仲間の関係を大切にする支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時面会に行ったり、入院前後の相談や支援を行うようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から一人ひとりの生活の希望や意向を聴き、行動や表情の変化を見逃さないように努めている。また、訴えが困難な場合は、ご家族にも情報を聴き、生活に反映するように努めている。	一人ひとりに寄り添う支援に努めている職員が横に座ったり2人で出掛けた時等話してくれる。入居者同志の会話や仕草からも聞き逃しのない様努め、話す事が困難な人には目を見ながら話し掛け動作や表情から把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に面接し、記録として残すと共に、ご家族の面会の際にも話を伺い把握に努めている。また、事前にも担当ケアマネジャーから情報をもらっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアの実施を個人記録として残している。また、月2回主治医の定期検診を行っており、職員全員が状態を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1回モニタリングを行い本人にあったケアの在り方について検討している。また、定期的にご家族の希望・要望を聴き、現状に即した介護計画を作成している。	入居者、家族に要望を聞いている。日常生活でのかかわり方を重視し、その人にとって何が必要とするか話し合い作成している。変化が有るとその場でプランを立て直し家族に報告する。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態を個人記録に記入し、申し送りの徹底をを図っている。また、ケアプランに沿った記録を行い、介護計画の見直しに活かせるように取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療機関への通院や外出支援・地域の方々との交流などその時々生まれるニーズに柔軟に対応できるように努めている。		

静岡県(グループホーム オアシス中之郷 1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	回覧される広報で地域の状況を把握している。入居の方々も祭りや消防訓練に参加していただき、心身の力を発揮し、安全な暮らしが出来るように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回は主治医に往診してもらっている。家族が通院に付き添う際は、日常の状態の詳細を伝え適切な医療が受けられるように支援している。	かかりつけ医の人はバイタルチェック表や必要とする詳細を持参して貰い家族が受診に同行結果報告を受け職員全員で共有支援に繋げている。主治医には月2回の往診を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的に情報交換を行い、状態変化等の場合は相談し、受診の必要性の判断や助言を得ている。連絡の取れる体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時、情報提供を行い、医療機関と情報を共有している。入院中職員、管理者が訪問し、退院を含め、今後の方向性について話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や看とりに関しての方針を契約書に記載事項を説明している。重度化時は本人、家族の意向を確認し、ホームで出来ること、出来ないことを説明し、主治医との連携を図りながら対応している。	緊急時には対応を家族に確認している。最近3人の方を入院先や施設で見送った。個人ファイルのポケットに救急時の対応方法が入っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルがあり、速やかに対応できるように備えている。職員全員が救急蘇生法の研修に参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	特に火災が起きた時には自分で避難出来る方が少ないので避難訓練が上手く出来ない所もある。	管理者は防災マイスターの資格を取得し、防災係を中心に今後の方針を検討中である。避難経路、職員連絡網のマニュアルは電話機の側に貼っており、災害発生時の近隣への協力は依頼してある。備蓄は1週間分用意してある。	災害はいつ起こるか分からず、夜間想定避難訓練の実施が望まれる。また、自分で避難できる方が少ない状況であるため、地域の協力体制の構築に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりを尊敬し、個々に応じた話し方、対応を心がけ、十分に配慮している。これまでの生活歴を把握し、親しみを込めた自然な呼びかけ、会話をし、プライバシーを損ねない対応をしている。	個々の生活歴等からも好きな事、嫌いな事を把握し尊厳やプライバシーを損ねない配慮、自己決定しやすい言葉かけに努めている。介護度が高くなるにつれ朝起きられない人には、時間をおいて、対応している。朝食やおやつを部屋に届けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声のかけ方や傾聴の仕方に配慮し、思いや希望を表現出来るような環境を作り、自己決定出来るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペースに合わせた生活をしていただくように「どのようにしたいのか」声かけ・傾聴を頻繁に行い、気持ちの把握に努め支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服や化粧品など好みの物を購入できるように一緒に買い物に行ったり、本人の希望でカットやパーマが出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食やおやつ作りを計画・実施し、個々の機能を活かせるように努めている。嗜好や状態に応じた食事が提供できるようにしている。	献立は本社からメニューが届きメインの材料は業者に発注、不足品は入居者と買い物に出かける。刻み食の人でお饅頭をそのまま食べたいと希望したのであげたら食べる事ができた。当日杏仁豆腐もそのまま食べる事ができ喜んでる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	朝、昼、夕に分けて食事量、水分摂取量を記録し、状態把握に努めている。また状態に応じた食事形態の検討を職員全員で行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア・義歯の洗浄は毎食後行っている。一人ひとりの口腔状態の把握に努めている。症状が現れた時には直ぐかかりつけの歯科に受診・往診をしている。		

静岡県(グループホーム オアシス中之郷 1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて、入居者の排泄パターンを把握している。時間、様子を察知して誘導、声掛けをしている。水分量や食事も把握し、活動や食事により自然な排便に繋げるようにし、確認を徹底している。	自立に向け時間誘導支援でトイレを使用。入所時3、4日様子を見て布パンツ、パットで対応している。汚れたら洗えばよいと指導している。入居者の表情も明るくなった。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便確認の徹底に努め、出来るだけ薬に頼らず排便があるように、水分摂取量を増やしたり、飲食物にオリゴ糖を混ぜたりと試みている。またレクリエーション参加や散歩を促し活動量アップに取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	原則隔日入浴であるが、入浴者の希望に合わせ、体調や状態等を考慮して入浴支援を行っている。拒否の方には時間や様子を見て声かけをしている。汚染時には清拭やシャワー浴等で清潔保持をしている。	その日の体調を見極め入浴をしている。一人介助が無理なら二人介助、二人介助が無理なら三人でと無理のない支援に心がけている。しょうぶ湯やゆづ湯は楽しみにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ソファで休息したり、自分の居室で過ごしたりと自由に出来る環境作りに努め、就寝前は穏やかな雰囲気作りやお昼寝の時間を設けることにより、生活にメリハリができ、夜間もぐっすり休めるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬ファイルに入居者の効能書を綴り、副作用や用量の把握に努めている。職員2名で声かけをしながら確認を行い、誤薬のないように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみなどの役割を持っていただき、またゲームや読書、など個々にあった支援をしている。ご家族にも聴きとりをし、趣味や興味のあるものの発見に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調や天候に合わせて近隣の散歩や買い物、ドライブに出かけている。毎日行う散歩により地域住民との顔見知りの挨拶や、散歩により体内時計のリセットになり夜間の安眠にも心がけている。	その日の気候、体調を見極め出かける。入居者は毎日の散歩を楽しみにしており、元気な人は他の人の腕を組んでエスコートしたり自分の出来ることは率先して行っている。誕生日は担当者とドライブに行き、好きなものを外食している。	

静岡県(グループホーム オアシス中之郷 1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの入居者の方は、お金の管理は無理があるので、買い物など必要な際には、職員が付添い本人が支払い出来るように支援している。また、ご家族の希望で小銭程度のお金を所持している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやり取りは自由になっている。また、介護計画書のプランに位置付け、手紙を書いてもらうように支援している方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じていただく為に、庭に草花や畑を作り野菜の栽培をしている。玄関には季節に応じた飾りで演出したり、入居者手づくりの鎌倉彫の作品も展示している。	共用空間は窓が多く明るく大きな丸テーブルが設置してあり一つの輪になり手仕事やカラオケ等皆で楽しむ。隅にはベッドや椅子が置かれ自由に過ごせる場があった。環境委員が玄関や廊下に花や盆栽を工夫して作り季節感があった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースに畳ベッドを2台置きベランダ近くにも椅子を設け、外の景色を眺めたりと個々の思いの場所で過ごせるように工夫し、入居者同士の関係や好きな時間の過ごし方を把握し、提供につとめている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が慣れ親しんだ物を持ってきていただくように説明はしているが、家族の希望で新品をもって来られるかたが多いのが現状。その中でも写真等居心地良く過ごせるように工夫している。	居室は不要な物は置かず酸素の必要者や車椅子が十分移動しやすい様にしている。又転倒防止に配慮している。筆筒、冷蔵庫、時計、衣類、帽子等が掛けられ家族写真も飾られその人の生活の場となっている。時間に関係なく仲良しの隣同士居室に訪問し合っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室が分かるように大きな文字で表示している。リビング、居室には不要な物を置かないようにし、危険防止に努めている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2293100026		
法人名	(株)オアシス		
事業所名	グループホームオアシス中之郷		
所在地	富士市中之郷3152-1		
自己評価作成日	平成26年8月5日	評価結果市町村受理日	平成26年10月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaigokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=2293100026-00&PrefCd=22&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成26年 9月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

会社の理念「思いやりの心を大切に」「安心・安全・楽しく」を基に入居者の方々と楽しく生活しています。一人ひとりの生活空間を大切に、時間に縛られず個人のリズムで1日流れて行くように努め、グループホームのみならず、データーサービスや地域の方々とイベント等で関わりがあり、自由に行き来しています。認知症を抱えておられる方々だからこそ、外出を大切に、毎日の散歩は欠かせず「行ってきます」「ただいま」をくりかえしていく事により、住む場所と思っただけのようにしています。全職員が救命救急講習を受講し、医療従事者との連携に備えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「思いやりの心大切に」・「尊厳を支えるケア」設立時からの理念である入居者と職員が家族であるようにとの思いをこめて実践に向け理念を念頭に置いて業務にあたっている。職員には入職時に説明している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	イベントがある時には地域の方々に来ていただき、ふれあいを大切にしている。また、買い物や散歩の際、地域の方々へ挨拶を交わしたり声をかけたりし交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	外部、内部研修に於いて認知症の勉強をするが今後、事業所独自の地域貢献に活かしたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月ごとの運営推進会議を開き、活動報告など話し合いを行い、参考意見を等をサービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者には事故報告・相談・及び運営上の相談等アドバイスをいただいている。また、運営推進会議には地域ホウカツセンターにも参加していただき、情報交換等行い、協力関係を築くよう取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関等に施錠なく自由に行き来できる。また、研修や身体拘束マニュアルの中で介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を明記し、拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議・申し送り等で虐待防止について話し合い徹底に努めている。全職員がが日頃から、気づきを大切にケアを行っており、入浴や更衣時にはボディチェックを行っており、見過ごしがないように注意を払い、虐待防止に努めている。		

静岡県(グループホーム オアシス中之郷 2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利容疑に参加した計画作成者が復講し、ホーム会議で全員が学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には必要な説明を行い、ご家族が理解・納得した上で契約を行っている。また、契約時のみならず、疑問点や要望には随時返答出来るように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や、運営推進会議でご家族からの意見・要望を聴く機会を設け、それらを運営に反映させるように努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的なホーム会議では事前に意見収集し、職員の提案を聴く機会を設け、それらを運営に反映させようように努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者はホーム会議に参加し、職員の思いや要望を聴き、職場環境・条件の整備に努めている。また、頻繁に施設に来て、勤務状況の把握に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や施設内研修を行い、スキルアップをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス事業者との交流会があり全員参加し入居者・職員との交流を深めている。他の事業者との意見交換をする機会も増えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に本人と面談し、希望や不安な事を聴き、受け止めるようにしている。また、可能な方やご家族に入居前に施設を訪問していたき、不安の解消に繋げている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の面談や相談時にはご家族の思いをじっくり聴き、それらの解消に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談時は、他のサービスも視野に入れ、本人と家族が何を必要としているか見極めるように支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に家事をしたり、誕生会や季節の行事など共に計画・実施している。本人の誕生日には外出の機会も設けている。また、人生の先輩であり、日々いろんな事を教えていただき良い関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	誕生会や行事等本人やご家族の希望を聴き一緒に計画・実施し、遠方にご家族には毎月担当者がお便りを出し日頃の状況を報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会を自由にしており、ご家族や知人との時間を大切にしている。家族の写真を持って来てもらったり、自宅に戻り、近所の人に挨拶したりの支援もしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食卓の配置を検討したり、話題作りなど、気の合う仲間の関係を大切にする支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時面会に行ったり、入院前後の相談や支援を行うようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から一人ひとりの生活の希望や意向を聴き、行動や表情の変化を見逃さないように努めている。また、訴えが困難な場合はご家族に情報を聴き、生活に反映するように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に面接し、記録として残すと共にご家族の面会の際にも話を伺い把握に努めている。また、事前にも担当ケアマネジャーから情報をもっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアの実施を個人記録として残し、月2回主治医の定期検診を行っており、職員全員が状態を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のモニタリングを行い本人にあったケアの在り方について検討している。定期的にご家族の希望・要望を聴き、現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態を個人記録に記入し、申し送りの徹底を図っている。ケアプランに沿った記録を行い、介護計画の見直しに活かせるように取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療機関の通院や外出支援・地域の方々との交流などその時々生まれるニーズに柔軟に対応できるように努めている。		

静岡県(グループホーム オアシス中之郷 2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	回覧される広報で地域の状況を把握している。入居の方々も祭りや消防訓練に参加していただき、安全な暮らしが出来るように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回主治医に往診してもらっている。家族が通院に付き添う際は、日常状態の詳細を通院時に伝え適切な医療が受けられるように支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的に情報交換を行い、状態変化等の場合は相談し、受診の必要性の判断や助言を得ている。連絡の取れる体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時、情報提供を行い、医療機関との情報を共有している。入院中職員、管理者が訪問し、退院を含め、今後の方向性について話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や看とりに関して方針を契約書に記載事項を説明している。重度化時は本人、家族の意向を確認し、ホームで出来ることを説明し、主治医との連携を図りながら対応している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルがあり、速やかに対応できるように備えている。職員が全員救急蘇生法の研修に参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害が起きた時など自力で避難出来ず困難な為年2回の訓練をもっと増やしたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりを尊敬し、個々に応じた話し方、対応を心掛け十分に配慮している。これまでの生活歴を把握し、親しみを込めた呼びかけ、会話をしプライバシーを損ねない対応をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声のかけ方や傾聴の仕方に配慮し、思いや希望を表現できるような環境を作り、自己決定出来るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペースに合わせた生活をしていただけるように「どのようにしたいのか」声かけ・傾聴を頻繁に行い、気持ちの把握に努め支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服や化粧品など好みの物を購入出来るように一緒に買い物に行ったり、本人の希望でカットやパーマが出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食やおやつ作りを計画・実施し個々の機能を活かせるように努めている。嗜好や状態に応じた食事が提供できるようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	朝、昼、夕に分けて食事量、水分摂取を記録し、状態把握に努めている。また、状態に応じた食事形態の検討を職員全員で行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア・義歯の洗浄は毎食後行っている。一人ひとりの口腔状態の把握に努めている。症状が現れた時には直ぐかかりつけの歯科に受診・往診をしている。		

静岡県(グループホーム オアシス中之郷 2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて入居者の排泄パターンを把握している。時間・様子を察知して誘導声かけをしている。水分量や食事量も把握し、活動や食事により自然な排便に繋げるようし確認を徹底している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便確認の徹底に努め、出来るだけ薬に頼らず排便がアロように、水分摂取量を増やしたり、毎日ヨーグルトにオリゴ糖を混ぜたり試みている。またレクリエーション参加や毎日の散歩を促し活動量アップに取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	原則隔日入浴であるが、入浴者の希望に合わせ、体調や状態等考慮して入浴支援を行っている。拒否の方には時間や様子をみて声かけをし、汚染時には清拭やシャワー浴等で生活保持している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ソファで休息したり、自分の居室で過ごしたりと自由に出来る環境作りに努め、就寝前は穏やかな雰囲気作りやお昼寝の時間を設けることにより、生活にメリハリが出来夜間もぐっすり休めるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬やファイルに入居者の効能書を綴り、副作用や用量の把握に努めている。職員2名で(声かけをしながら確認を行い、誤薬のないように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみなどの役割を持っていただきまた、ゲームや読書など個々にあった支援をしている。ご家族にも聴きとりをし、趣味や興味のあるものの発見に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調や天候に合わせて近隣の散歩や買い物・ドライブに出かけている。毎日行う散歩により地域住民と顔見知りやの挨拶や散歩による体内時計のリセットになり夜間の安眠にも心がけている。		

静岡県(グループホーム オアシス中之郷 2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの入居者の方はお金の管理は無理であるので買い物など必要な際にはご家族へ連絡したり、職員が付添で本人が支払い出来るように支援している。また、ご家族の希望で小銭程度のお金を所持している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやり取りは自由にしている。介護計画書のプランに位置付け手紙を書いてもらうように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じていただく為に庭に草花や畑を作り野菜の栽培もしている。玄関には季節に応じた飾りで演出したり、入居者手づくりの鎌倉彫の作品も展示している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースに畳ベッド2台置きベランダ近くに椅子を設け、外の景色を眺めたりと個々の思いの場所で過ごせるように工夫し、入居者同士の関係や好きな時間の過ごし方の提供をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人がなれ親しんだ物を持ってきていただくように説明はしているが、ご家族の希望で新品を持って来られる方が多いのが現状。その中でも写真等居心地良く過ごせるように工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室が分かるように大きな文字で表示している。リビング、居室には不要な物を置かないようにし危険防止に努めている。		